

業務実績報告書

提出 2020 年 1 月 20 日

1. 職名・氏名 教授 寺島 喜代子

2. 学位 学位 博士、専門分野 医学、授与機関 福井大学、授与年月 2012.3

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
1. 老年看護学概論（2単位 毎年開講） 2年生（2017 以前～2019 年度）	
① 内容・ねらい	2 年前期の開講科目であり、学生が看護の対象を理解する力や高齢者の具体的イメージが乏しいことを踏まえ、生命力アセスメントモデルを使って高齢者を理解するとともに高齢者の“もてる力”の気づける講義としている。高齢者疑似体験をとおして加齢に伴う身体的変化が高齢者の「生活する力」に及ぼす影響を迫体験し、高齢者の食や排泄、活動・休息や清潔をととのえるために必要な視点を学ぶ。「支える力」では新聞記事やニュースで取り上げられる話題をとおして、高齢者の生活を守る社会保障制度や社会の変化が高齢者の生活及ぼす影響を理解できるようにしている。
② 講義・演習の工夫	現在 85 歳の高齢者の生きてきた時代を理解するため、終戦直後や「All Ways 三丁目の夕日」の集団就職生を中心に uptake、映像をとおして理解できるようにしている。また脊椎の変形や膝関節の可動制限がある高齢者疑似体験スーツを着用し、姿勢の変化が生活動作をするうえで生じる不便さや危険を理解する。高齢者を取り巻く社会福祉制度や社会的問題に関心を高めるために、テーマに則した新聞記事などをグループ毎に発表し、学生の高齢者に対する意識を高める工夫をしている。
2. 老年看護学（2017～2019 年度）オムニバス講義	
① 内容・ねらい	高齢者の「食と排泄」「運動と休息」「皮膚と清潔」、「認知機能の障がい：高齢者うつ、せん妄、認知症」を学ぶ。オムニバスで担当している領域は「運動と休息」で、運動機能障害の特徴を理解したうえで、高齢者の転倒、廃用症候群、睡眠パターンの変化とサーカディアンリズムを整える援助の実際、運動機能評価の実際を学ぶ。担当時間数：2017 年度（10 コマ）、2018 年度（6 コマ）、2019 年度（5 コマ）
② 講義・演習の工夫	復習を兼ねて前回授業内容の小テストを実施している。また学生が、問題意識を高めるために先輩学生の実習での実践事例を数多く活用し、実習イメージや看護実践による高齢者の反応が理解しやすいようにしている。
3. 老年看護学演習（1単位 毎年開講）（2017～2019 年度）：3 年生（1単位 毎年開講）オムニバス講義・演習	
① 内容・ねらい	老年看護学実習での実践力強化を意識した学習内容とし、技術面と看護過程展開力を演習で理解する内容としている。技術面では、1) MDRPU の理解と弾性ストッキングの着脱演習、2) ギャッチアップの角度と体圧測定の実際、体圧分散寝具の理解、3) 片麻痺や立位バランスが低下した高齢者のベッドから車椅子への移乗の実際、4) ROM 訓練や座位耐性訓練、座位から立位、歩行に至る離床拡大の段階を理解するである。5) 看護過程展開演習は、実際の実習記録を活用しながら、情報分析、関連図作成、生命力アセスメント、看護の方向性を導くまで、心不全急性増悪と脳梗塞発症後の事例を基に展開する。担当時間数：2017 年度（10 コマ）2018 年度（12 コマ）：2019 年度（13 コマ）
② 講義・演習の工夫	技術演習では、4 名の老年教員および、学外講師（皮膚・排泄認定看護師）3 名を演習のアシスタントとして協力依頼し、学生個々に技術指導が実施できるようにしている。看護過程展開の事例展開演習では、解剖生理学や病態生理学の既習の知識を活かし、生活をととのえる看護

の視点が身につくように、学生を3グループに分け、4名の教員で学生個々のアセスメント力強化になるように、個別指導ができるようにしている。

4. 老年看護学発展セミナー（1単位）2019年度 4年生

① 内容・ねらい

＜目標＞さまざまな健康問題を抱えて在宅で生活をしている高齢者やその家族を支援している、地域包括支援センターや居宅介護事業所で行われている支援の実際と多職種連携や協働の実際を学ぶ。

② 実習運営上の工夫

慢性疾患をもちながら高度急性期病院を退院した独居高齢者や家族からの支援が乏しい対象者が、地域でどのような支援を受けながら健康状態を維持しているのかを知るために、地域包括支援センターの事業に参加し、居宅支援事業所でケアマネが要介護状態の独居高齢者の訪問に同行し、高齢者の生活をみたくうえで実際を学ぶ。

学生個々の学習目標を明確化したうえで、地区特性を把握したうえでフィールド学習するように8コマの授業運営をしている。4名の学生を受け入れ、①学習目標の明確化（1コマ）、②地域包括支援センターや居宅介護支援事業所の地区特性（構成人口、世帯構成、産業構造など）を学習し、問題意識を明確化（1コマ）、③フィールド学習（2名は地域包括支援センター、2名は居宅介護支援事業所）（1日）④フィールド学習報告会と次回フィールド学習の課題の明確化（1コマ）⑤フィールド学習（前回とフィールドは入れ替え）（1日）⑥総括；自己の学習課題に関する学びの発表（1コマ）

5. 老年看護学実習（4単位 毎年開講）3年生（2017年度～2019年度）

① 内容・ねらい

目的；(1) 多様な価値観をもち、健康問題を抱えている高齢者の日常生活の自立を拓げる援助をとおして、高齢者の“もてる力”を引き出す看護を実践する。(2) 生活機能に何らかの障害を持つ高齢者が健康な生活を維持していくための「支える力」の援助の在り方を理解する。

実習展開方法；《急性期病院実習》、《介護老人保健施設実習》、《デイケア実習》を経験したうえで、《老年実習まとめ》として、グループワークを経て、生活の場が異なる高齢者の“もてる力”を拓げるための援助の在り方について学生の考えをレポート作成してまとめる。

② 実習運営上のねらい

急性期病院で治療を優先する段階の高齢者に必要な援助について、受け持ち患者の看護過程展開をとおして、学生が実際に援助の実際と評価を行えるように、病棟看護師に協力依頼し学生の実践の機会を増やすようにし、学生自身の看護実践で得られる患者の反応を実感できるようにしている。介護老人保健施設やデイケアの実習では、要介護高齢者の援助の実際を体験するとともに、デイケア利用者の朝夕の送迎に同行し、要介護高齢者を抱えて在宅で生活している家族の生活に触れる機会を作っている。そして多職種連携の実際や協働の重要性が気付けるようにしている。最後の《老年実習まとめ》では、学生を3～4名のグループとし他学生の体験を発表し合い、自身の体験と結びつけるための時間を設けたうえで、最終的に学生が自身の考えをまとめられるようにしている。

6. 看護マネジメント実習（2単位 毎年開講）4年生（2017年度以前～2019年度）

① 内容・ねらい

実習目標：(1) 看護サービスマネジメントの全体像を把握する (2) 実践を通して看護サービスマネジメントについて考える

② 実習運営上のねらい

専門領域の実習場とは異なる福井大学での実習であり、本学の学生の特徴や、実習目標や実習運営方法の理解を得るために、5月より看護部長、教育担当部長、実習病棟看護師長（7部署）と連絡を密にとりながら理解を得るように準備している。

実習中は、学生が臨床現場でどのような体験をしているのか教員自身が理解するために、実習病棟の朝の申し送りや病棟カンファレンスに参加し、学生と体験の共有化を図ったうえで、毎日実施するカンファレンスに活かしている。学生の実習終了後の学生個々の学びのレポートは、実習病院の各病棟と看護部に配布し学習成果の報告としている。

7. 卒業研究（2017年度以前～2019年度）（3単位 毎年開講）4年生

① 内容・ねらい	<p>看護実践から生じた学生の問題意識を明確にし、学生の関心が高い研究問題を研究テーマとするように実施している。そのテーマのほとんどが対象事例や家族を対象としたものであり倫理委員会の承認を必要とする内容である。そのため研究の早い段階から研究目的を焦点化し、倫理委員会の承認に向けた書類整備をとおして看護研究における倫理的な課題の学習に繋がっている。指導を担当した学生は、2017年度3名、2018年度1名、2019年度3名で、全て倫理審査委員会の審査を受け承認を受けて実施した研究内容であった。</p>
② 演習運営上の工夫	<p>学生の問題意識から研究課題につながる過程を重視するために面接指導の回数を重ねている。研究における倫理的配慮を形骸化させないために、申請書の作成のみならず、研究対象宅や施設現場での研究協力要請の説明には同行し学生の調査研究を支えている。そこから研究を行うに当たっては多くの関係者の協力が必要であることを体験し、研究終了後の報告も怠ることがないように当該関係者に報告の機会を持ち、教員も同行している。</p>
8. 研究科；老年看護学特論（2単位）（2017年度以前～2018年度）2018年度のみオムニバス	
① 内容・ねらい	<p>複雑な健康問題を抱えながら在宅、老人介護施設、病院で生活する高齢者やその家族を対象とした看護の実際を理解するためのアセスメントの視点や理論を学ぶ。高齢者の理解ではストレス理論から高齢者の強みを活かす看護の実際について事例を用いて理解する。家族看護では家族システム理論を用いて事例の家族をアセスメントし、家族看護の展開や介護受容過程にある家族支援を理解する。終末期医療と代理意思決定支援の実際について事例を振り返り、課題を明らかにする。2018年度（18コマ）</p>
② 演習運営上の工夫	<p>文献のみならず学生自身がもつ看護実践の体験を活かすことを重視し、理論や実際に適用するうえでの課題を明らかにすることで、リフレクション機能を活かし今後の実践に繋がるように工夫している。</p>
9. 研究科；老年看護学演習（2単位 毎年開講）（2017年度以前～2018年度）	
① 内容・ねらい	<p>院生の看護実践の問題意識を研究テーマに繋げるために、院生の問題意識に添った文献を基に、研究問題や研究目的、研究の進め方の問題を整理していきながら研究テーマの絞り込みをすすめる。2017年度は「急性期病院入院高齢患者のせん妄発症誘因と看護の実際」で、2018年度は「介護保険施設における看護師の終末期の判断と家族支援の実際」であり研究計画書作成及び倫理申請書作成までの指導を行った。</p>
② 講義・演習の工夫	<p>演習のなかで学生の問題意識を整理することと批判的に文献を読み進めることの指導に主眼を置いている。学生は文献を読みことで満足してしまい、結果から何が明らかになったのか、自身の問題意識と結果がどのようなつながりがあるのかを明らかにすることなく文献要約をする。学生自身が先行研究から何を学んだのか、自身の研究問題とは未だ解決できていない点は何かに気づき、整理できるように演習をすすめている。</p>
10. 老年看護学特別研究（10単位 毎年開講）（2017年度～2019年度）	
① 内容・ねらい	<p>老年看護学演習で明確化した学生の研究問題を、文献検討を重ねてより明確にし、研究方法を決定する。研究計画書を作成して発表し本学と調査対象となる施設の倫理委員会申請に向けた準備を行う。研究計画に基づいたデータの収集を行い、データ分析や結果を文章化するうえで、より明確な方法で、学生の意図が伝わる発表方法について指導を行う。2017年度は1名、2018年度は1名、2019年度は1名の修士論文作成の指導を行った。</p>
② 演習の工夫	<p>社会人の学生であるため、演習は学生の時間に対応するように配慮する。 学生が研究結果の意味を理解でき、考察を深められるような指導を進めている。</p>
11. 看護教育論（2単位 毎年開講）（2017年度以前～2019年度）	

<p>① 内容・ねらい</p> <p>キャリアの心理学でドナルド・スーパーとクルンボルツの学習理論を学び、看護師が持つ教育的機能の基本を理解する。社会人基礎力について学び、看護師新人が社会人としての身に着けるべき基礎力を理解したうえで、看護の臨床現場が社会人基礎力の阻害と育成にどのような影響をもたらすのかを理解する。そのうえで、社会人である学生自身の臨床現場での自身の体験をリフレクションする。こうした演習をとおしてキャリア発達における体験を学習の機会とすることを学ぶ。</p>
<p>② 講義・演習の工夫</p> <p>キャリア発達の観点から受講者自身のこれまでのキャリアについて振り返る。新人看護師体験や現在の立場での看護実践を介したスタッフとのかかわりを自身でリフレクションし、学生同士のグループワークでもリフレクションを深めて経験から学ぶことの意味を理解する。</p>
<p>(2)非常勤講師担当科目</p>
<p>1. 基礎看護学方法論Ⅶ(看護研究)3年生 福井県看護専門学校(2017年度以前～2019年度)10時間担当</p>
<p>①内容・ねらい</p> <p>看護研究の意義と研究方法の概要を示しながら、臨床現場で看護研究がどのように活かされているのかを紹介し看護研究の理解を深める。</p>
<p>②講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <p>学生の臨床経験をふり返り、研究課題にどのように結びつけていくのかについて発表する機会を設けて、臨床と研究のつながりを理解できるようにする。質的研究の研究手法の理解は、実際の事例をもとにグループでの演習をしながら理解できるようにしている。臨床現場から研究問題を見出し、研究テーマにつなげていく過程は、病院の看護研究指導での実際例を活用し、学生が“研究”を身近に感じられるように工夫している。</p>
<p>③本学における業務との関連性</p> <p>実習経験から学生がもつ問題意識は、本学学生の看護研究指導においても活かされている。</p>
<p>(3)その他の教育活動</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 福井県保健師助産師看護師実習指導者講習会講師、 担当講義および指導内容：2017～2019年度⇒「看護師基礎教育課程①」「実習指導の方法」「実習評価の意義・方法」「実習指導案作成オリエンテーション」「実習指導案作成総括」、 ・ 福井県済生会病院看護研究指導(2017年度) 「看護研究面接指導16部署」(研究問題～研究テーマの絞り込み、研究方法の進捗状況の助言、研究結果の示し方、まとめ方について) 「学会発表時の論文、発表のための指導」 「看護研究講義」4回(90分/回) ・ 福井赤十字病院研究指導(2019年度) 2-7病棟「大腿骨頸部骨折術後の高齢患者の離床援助に関わる看護師の認識」研究指導

4. 研究業績

<p>(1)研究業績の公表</p>
<p>① 論文</p>
<p>② 著書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『根拠がわかる老年看護技術』改定版(共著)担当第3章、「2. 認知症高齢者の日常生活援助技術」pp.263-298、改定2017年10月、メジカルフレンド社
<p>③ 学会報告等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「意思疎通不可能な高齢者の人工的水分・栄養補給法の代理意思決定支援；代理意思決定支援における看護師の思い」第50回日本看護学会慢性期看護学術集会、大蔵真由美、寺島喜代子(2019年11月)

<ul style="list-style-type: none"> ・「研修企画を経験した中堅看護師のキャリア開発；中小規模病院研修機能強化プログラムの参加をとおして」日本看護管理学会第 22 回学術集会、寺島喜代子、赤川晴美、大川洋子（2018 年 8 月） ・「高齢者の終末期における家族による人工的水分・栄養補給法の代理意思決定に関わる看護師の思い」日本老年看護学会第 23 回学術集会、大蔵真由美、寺島喜代子、佐藤文（2018 年 5 月）
<p>④ その他の公表実績</p> <p>平成 26 年・27 年度県立大学地域貢献研究推進委員会研究「中堅看護師のキャリア発達を支援する能力開発プログラムの構築；中小規模病院の院内研修企画力強化プログラムをとおして」報告書刊行（2019 年 3 月）</p>
<p>(2)学会活動等</p> <p>学会でのコメンテーター、司会活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本老年看護学会 2019 年度生涯学習支援研修；基礎編（金沢）ファシリテーター（2019 年 12 月 7 日） ・第 50 回（2019 年度）日本看護学会－精神看護－学術集会 口述発表司会（2019 年 8 月 30 日） ・日本老年看護学会 平成 29 年度認知症対応力向上研修 北陸地区開催 講師（2017 年 9 月 23 日） ・日本認知症ケア学会 北陸・甲信越地域部会（福井）事例検討会 司会・ファシリテーター（2017 年 11 月 12 日・2018 年 11 月 10 日） ・日本老年看護学会 2019 年度生涯学習支援研修 基礎編（金沢）⇒事例検討、ファシリテーター（2019 年 12 月 7 日）
<p>学会での役職など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本看護学会－精神看護学術集会 抄録選考委員（2019 年 3 月～6 月）
<p>学会・分科会の開催運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 30 回母性衛生学会実行委員（2017 年 6 月 18 日）
<p>(3)研究会活動等</p> <p>① その他の研究活動参加</p> <p>科学研究費助成事業；研究課題「看護職の生涯にわたるキャリア発達を支援する体系的研修プログラムの構築」代表者；和住淑子(千葉大学) 研究分担者；寺島喜代子（エフォート 10%）（2016 年度～2019 年度）</p> <p>② その活動による成果</p>
<p>(4)外部資金・競争的資金獲得実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立大学地域貢献研究推進委員会研究「中堅看護師のキャリア発達を支援する能力開発プログラムの構築；中小規模病院の院内研修企画力強化プログラムをとおして」2016 年～2017 年度
<p>(5)特許出願</p>

5. 地域・社会貢献

<p>(1)学外団体</p> <p>①国・地方公共団体等の委員会・審議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・永平寺町介護認定審査委員（2017 年度以前～2019 年度） ・福井県医療審議会委員（2017 年度以前～2019 年度） ・勝山市高齢者虐待防止ネットワーク委員（2017 以前～2019 年度） ・加賀市健康福祉審議会高齢者分科会 地域密着型サービス整備部会（2017 年度～2019 年度） <p>②国・地方公共団体等の調査受託等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加賀市地域密着型サービス事業所整備事業者募集「小規模多機能型居宅介護」整備調査・審査（2019 年度） <p>③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加</p>

④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動
<ul style="list-style-type: none"> ・ 福井県済生会病院看護研究指導（全病院 16 部署）2017 年度 ・ 福井赤十字病院研究指導（1 部署）2019 年度 ・ 日本認知症ケア学会 北陸・甲信越地域部会（福井）事例検討会運営（2017 年度～2018 年度） ・ 日本老年看護学会生涯学習支援委員会 認知症看護対応力向上研修企画運営（2017 年度） ・ 日本老年看護学会生涯学習支援研修（基礎編；金沢）研修企画委員（2019 年度）
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等
⑥その他
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
① 公開講座・オープンカレッジの開講
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2019 年度前期永平寺キャンパス公開講座「あなた自身の看護実践や指導の実際は宝の宝庫！；実践から学ぶ術を高めよう」3 回シリーズ；6 月 22 日、7 月 27 日、8 月 24 日
② 社会人・高校生向けの講座
<ul style="list-style-type: none"> ・ 福井県立武生東高等学校課題研究発表会 助言者（2019 年 1 月 24 日）
③ その他
<ul style="list-style-type: none"> ・ 県立大学地域貢献研究；中小規模病院研修機能強化事業の成果報告 フォーラム開催 2018 年 3 月 25 日
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等）

6. 大学の管理・運営

(1)役職（副学長、部局長、学科長）
(2)委員会・チーム活動
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員評価委員（2017 年度） ・ 看護学科内 カリキュラム委員会（2017 年度～2019 年度） 福井県立病院実習領域総括（2018 年度～2019 年度） 入学試験本部委員（2019 年度）
(3)学内行事への参加
(4)その他、自発的活動など
<ul style="list-style-type: none"> ・ リスクマネジメント協会認定資格：MRM(Medical Risk Management)取得（2006 年） PM (Professional Project Management) 取得（2009 年） E S RM (Elder Service Risk Manager) 取得（2009 年） P M C O (Professional Management Consulting Officer) 取得（2012 年） C R M (Certified Risk Manager) 取得（2013 年）